

# 千葉駅帰宅困難者対策実動訓練を通じて得た課題

資料 3-3

機関名	現状と課題
行政機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織メールアドレスが用意できない機関のために、全ての機関にメール及びFAXを送信したが、全ての機関にFAXするのに大変時間を要した。</li> </ul>
公共交通機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人の対応をどうするか(誰が、どのように(例えば機器を用いて))、社内での方針が決まっていない。</li> <li>訓練ということで、構内放送のボリュームを抑えたところもあったが、放送がよく聞こえなかった。</li> <li>誘導のタイミングや方法がうまくいかなかった。</li> <li>2～3年で異動が生じるので、千葉駅に勤務になったものが、一時滞在施設の場所がわからなく、案内が出来ない。</li> <li>通信訓練において、防災無線の使い方がわからなかった。</li> <li>常時は無人駅が多く、大災害時は本社からの応援で対応することを考えているが、今回の訓練で再確認したい。</li> <li>乗客を安全な場所に移動させる際、ヘルメットが必要だと感じたが、社として準備ができていないことから、対応を考えていきたい。</li> </ul>
一時滞在施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物が安全か(受入可能か)について、判断できるものがほしい。</li> <li>一時滞在施設の利用同意書を作成してほしい。</li> <li>障害者や外国人対応については、今後も検討を継続していきたい。</li> <li>対応マニュアルを作成したい。</li> </ul>
協議会機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>案内をする際、英語で書かれた一時滞在施設の案内マップがあれば案内しやすいと感じた。</li> <li>空港やバスなどの情報も案内に必要だと考えており、他の機関とも連携を深めていきたい。</li> </ul>
身体障害者連合会 (千葉中央看護学校 その他)	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害者に対して使用していた筆談時のタブレットは、全てひらがなで書かれていたので、簡単な漢字が対応できればもっとよかった。</li> <li>寒さ対策として、毛布があればよかった。</li> <li>簡易トイレは、障害者には狭いため、もっと大きなものを用意する必要がある。</li> <li>誘導中も視覚障害者への案内(火災は起きていない、壁は崩れていないなど)があった方がよい。</li> <li>三角巾のほかに、腕を固定する副木を用意してほしい。</li> <li>被災者全員を病院に搬送することは困難なため、トリアージする必要がある。</li> </ul>